

新体操選手の引退における実態調査

The survey about the retirement player of rhythmic gymnastics.

1K06A201

指導教員 主査 中村 好男先生

羽田 真弓

副査 土屋 純先生

【緒言】

スポーツ選手において必ずや訪れる引退。しかし、競技により引退の時期がかなり異なる。競技引退への関心や理論的・実証的研究に関する研究は増えてきているが、選手の引退に焦点化した実証的な研究は少ない。アスリートの引退に関する先行研究によれば、引退の理由として競技力の低下、環境の不備、怪我・病気があげられている。しかし、新体操選手はどのような時期に競技を引退するのか。また、新体操選手の引退要因は何なのか。新体操の引退状況についてははっきりとした研究がない。本研究では過去に高い成績を持った新体操選手を対象として、近年の新体操選手の引退状況について調査し引退の時期および要因を明らかにする。そして、新体操選手が長い期間、競技生活を送るために働きかけられるよう、引退をめぐる問題についても明らかにする。近年の新体操選手の引退状況、問題点・課題を把握することを目的とした。

【方法】

対象者：新体操を5年以上行っていて、全国大会に出場した女性12名を対象者とする。現在大学1年生（18歳）から23歳の新体操を引退した人を対象とし、調査を行う。

調査期間：2009年11月8日～22日

調査内容：先行研究をもとに、過去の競技歴について、引退について、引退後についての質問項目を作成し、アンケートおよびメールでの調査を行った。

【結果】

過去の競技歴について

新体操における競技開始時期は、小学校以前、小学校低学年からと早い時期から関わっていることが明らかとされた。また、競技への傾倒度は中学生時期から生活の側面を犠牲にして新体操に取り組む傾向があった。そして、75%の割合で目標・願いの達成して引退したことが分かった。

引退について

引退の時期について、高校生卒業時に引退する者がもっとも多かった。大学卒業時には100%の者が引退し、大学卒業後に競技を続け、その後引退する選手はみられなかった。自発的に引退をすると決める者が多く、それらの理由は、「将来のため」に引退した者の割合が33%と最も多かった。続いて「意欲の減退」、「怪我・病気」、「コーチとの関係」となった。70%近くの者は自身の引退について「後悔した」と答えた。

引退後について

現在でも引退に対しての後悔が「たまにある」者が50%の割合であった。また、引退後の物事への取り組みについて、よくなった者が半数以上であることが分かった。しかし、少数ではあったが「めりはりがない」と答える者もいた。

【考察】

新体操選手は、たんに競技引退が早いのではなく、他の競技よりも開始時期が早いいため、長年の競技生活を経て、20歳前後という若い年齢

で引退する選手が多い。さらに、新体操にはプロや実業団がないため高校、大学生時代が将来への移行期と言えるのではないか。

新体操選手が長い期間、競技を続けられるための一つとして、意欲の減退する選手をなくすため、選手の「モチベーション」を考えたコーチの働きかけが課題である。また、新体操を続ける環境が少ないため、高校卒業後、大学卒業後にも新体操が続けられる環境を整えることが必要であると考えるが、現状では環境を整えるのは難しい。また、引退後物事への取り組みにめりはりがなくなった者がいた。引退時に獲得された心理的資源が引退後の生活においてどのように生かされるのか検討していくことが今後の課題である。